



特集1 — 北陸地区の本部意見交換会

特集2 — (一社)日本建設業連合会北陸支部
定時総会

68 2020.10



▲ 五箇山相倉集落
(撮影：広報委員 工藤 悟)

会員各社名

アイサワ工業(株)	オリエンタル白石(株)	大成ロテック(株)	東洋建設(株)	(株)北都組
青木あすなろ建設(株)	(株)加賀田組	大日本土木(株)	戸田建設(株)	(株)本間組
あのみ建設(株)	鹿島建設(株)	大豊建設(株)	飛鳥建設(株)	前田建設工業(株)
(株)安藤・間	(株)熊谷組	(株)竹中土木	西松建設(株)	(株)丸山工務所
石黒建設(株)	五洋建設(株)	田辺建設(株)	日特建設(株)	三井住友建設(株)
岩田地崎建設(株)	佐藤工業(株)	鉄建建設(株)	日本国土開発(株)	みらい建設工業(株)
(株)植木組	清水建設(株)	東亜建設工業(株)	(株)福田組	名工建設(株)
(株)大林組	(株)銭高組	東急建設(株)	(株)フジタ	りんかい日産建設(株)
(株)大本組	第一建設工業(株)	東鉄工業(株)	(株)不動テトラ	若築建設(株)
(株)奥村組	大成建設(株)			



68 2020.10

発行 一般社団法人 日本建設業連合会 北陸支部 広報委員会
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1(興和ビル7F) TEL(025)285-8886

印刷 新潟中央印刷

2020.10.8 発行



工段階において、プレキャスト化による効果を評価して積極的な活用を検討して行く。

- 従来から交差する水路又は道路の横断ボックス等に関して、プレキャスト化に取り組んできたところです。今後とも、設計並びに施工段階において、積極的なプレキャストの活用而努力して行く。
- プレキャスト部材については、波浪や潮位等の自然条件の影響や供用後のライフサイクルコストの低減を勘案し採用しているところであり、今後とも引き続き積極的な活用而努力して行く。

5 ブレイクスルーするための新たな展開

【日建連】

これまでの意見交換会では、現場が抱えている目の前の課題の解決を中心に議論してきた。一方、昨年末に政府が策定した「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」では、『国を挙げてSociety 5.0という新しい時代の実現を加速すべく、次代の競争力の源泉となり、地球環境問題などSDGsの実現を含む社会的課題解決に資するイノベーションを力強く促進するとともに、先端技術の社会実装・普及を加速する。』とされている。

このことは、社会資本整備やそれに深く関わる建設産業の役割についても中長期的な方向性を議論すべきタイミングであることを明確に示している。

このため、従来の議論の枠組みを破って、今後の建設分野全体をターゲットにした認識の共有が必要である。

【整備局】

<働き方改革に資するICTの活用(遠隔臨場など)>

- 新型コロナウイルス禍の対策について、諸外国と比較すると何より日本のICT分野での遅れが指摘されている。(台湾のマスク在庫情報提供システム、ドイツのオンライン補償支払システムなど)話題になっています特別定額給付金のオンライン申請についてもシステム障害というより、運用の問題が大きいのではないかと考えている。
- 我が国が技術的後進国とは感じませんが、既存の仕

組みや制度の切り替えを大胆に行うことが必要と考えている。公共工事においても具体的に次のような取り組みを積極的に進めて行く必要があると考えている。

- ・ICT技術を活用した臨場検査省略の試行(遠隔臨場)
- ・VR/ARによる施工管理の高度化、監督検査の合理化(段階検査の試行等を含む)
- ・三次元データを活用した監督検査のルールづくり
- ・AI・3Dプリンター・UAV等の既存技術のさらなる利用推進
- ・工事書類の統一化(特に自治体)

- これらの推進により、これまで建設分野に関心の無かった異分野の企業や技術者、学生等が興味を持つことで、新たに建設業界へ迎入れられることも期待され、建設業界全体の発展にもつながるものと考えている。
- 今回のコロナ禍対応で培われた「新しい生活様式」の取組等が、収束後の働き方改革やICT技術等の発展の流れに進んでいくものと確信しており、日建連等業団体の協力も得ながら積極的に取り組みを進めたい。

<BIM/CIMの推進>

- 北陸地方整備局では、令和2年2月新潟・富山・石川の3会場延べ244名を対象に、ICT導入の投資判断を行う経営層に導入メリットを直接訴える事を目的として、経営者クラスを対象とした講演会を開催した。
- 講習会では、ICT導入に慎重な企業の背中を押すため、初期投資や人材育成、補助金や税制優遇制度などについて、北陸地整管内外からICTトップランナー6名に講師を依頼し具体的にアドバイスをいただいた。
- Cランク、Dランクの企業経営者が中心ですが、トップランナーによる具体的な成功例を直に聞くことで、ICT導入に向け興味深く伝わっているという感触を得ている。
- 今後も裾野を広げる意味で経営者クラスを対象とした講習会を実施していくとともに、見学会、報告会、自治体支援、技術開発などにも積極的に取り組んで行く。

一般社団法人 日本建設業連合会北陸支部

2020年度 定時総会

2020年度 一般社団法人日本建設業連合会北陸支部 定時総会



■と き / 2020年6月8日(月)
 ■と ころ / 新潟市中央区川端町6-53
 ホテルオークラ新潟

1 会議の目的である事項

第1号議案	2019年度 事業実施状況報告の件
第2号議案	2019年度 予算執行状況報告の件
報 告	2020年度 事業実施計画
報 告	2020年度 予算執行計画

2 出席会員等

会 員 総 数	47名
出 席 者 数	36名
委任状提出会員	11名
合 計	47名

3 議事の経過、概要

司会が開会を宣した後、芦田支部長が議長となって議事に入る。

- 1) 議事録署名人として議長の他、(株)大林組の佐藤公彦氏、清水建設(株)の齊藤武文氏、大成建設(株)の岡田正彦氏、(株)福田組の荒明正紀氏、前田建設工業(株)の東福忠彦氏を指名した。
- 2) 第1号議案 2019年度 事業実施状況報告の件
 第2号議案 2019年度 予算執行状況報告の件
 を上程し、事務局長の概要説明および小林監査委員の会計監査報告後採決を行い全員一致で原案どおり承認した。
- 3) 報 告 2020年度 事業実施計画
- 4) 報 告 2020年度 予算執行計画
 について、事務局長の上程議案の報告後、全会一致で了承した。

以上をもって、総会の議事を全て終了。
 司会が、閉会を宣す。

引き続き、事故防止対策委員会で行った現場点検の優秀現場支部長表彰を行った。

工事名 「H29-32金沢東環月浦トンネル工事」
 施工者 「株式会社 大林組北陸支店 金沢月浦トンネル工事事務所」



2020年度定時総会の支部長挨拶



日本建設業連合会
北陸支部長
芦田 徹也

【はじめに】

只今ご紹介に与りました支部長の芦田でございます。支部定時総会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年2月以降の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、政府は4月7日に緊急事態を宣言し、以降も様々な施策がとられて参りました結果、全国的な宣言解除はなされたものの、依然、日々一定の感染者数が確認されています。

このような状況を鑑み、会員の皆様には参加人数を抑えさせていただいて、日本建設業連合会北陸支部の定時総会を開催いたしましたところ、ご多用にも拘りませず、多数の方にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

【日建連本部 2020年度の取組み】

去る4月28日に、日建連本部においては、例年より規模を縮小して定時総会が開催されました。その中で、今年度の活動方針が示されたところです。

日建連は、わが国を代表する元請事業者団体として、2020年度におきましても引き続き、建設キャリアアップシステムの普及推進と、週休二日の定着促進という二大事業をはじめ、生産性の向上、建設技能者の処遇改善、けんせつ小町の活躍推進など、建設産業基盤の充実・強化につながる各種活動について、業界の先導役として、他の建設業団体と連携を図りつつ、積極的に取り組むこととしております。

今年度、北陸支部におきましても、この本部の活動方針を受け、更に北陸地域の状況も踏まえつつ、積極的に取り組んで参る所存であります。

【北陸地域の社会情勢と担い手確保】

北陸地域においては、今般の新型コロナウイルス感染の拡大が終息に向かっている状況ではありますが、全国各地で第二波の感染が確認されている中、今後の地域経済への影響が大変懸念される状況となっております。

2020年度の北陸支部の取組みについては、例年の活動計画の中で縮小せざるを得ないところもございますが、その概要をいくつか申し上げます。

まず第一に、北陸地域の景況と担い手確保についてです。1月30日には2019年度補正予算が成立されましたが、公共

事業費においては、自然災害に備えるための防災・減災対策やインフラの老朽化対策に重点配分されるものとなりました。2020年度当初予算案につきましては、3月27日に参議院本会議において可決し、成立されたところでございます。今年度で最後となりますが、『防災・減災、国土強靱化のための3ヶ年緊急対策』実施のための公共事業費の上積みも行われたところです。

我々の業界にとりましても、この緊急対策には地域の守り手としての使命を感じますとともに、引き続き、防災・減災、国土強靱化に向けた対策が継続されることを期待しているところでございます。

また、我が国の少子高齢化が進展する中において、全ての産業界において「担い手不足」が大きな問題となってきております。地域の基幹産業でもあります建設業界といたしましても、その使命の根幹を揺るがすようなこの問題に対処しなくてはならないところに来ております。まず、建設業の働き方改革にあたっては、日建連といたしましても、「週休二日実現」や「時間外労働の適正化に向けた自主規制」など喫緊の課題に会員各社一丸となって取り組んでいるところでございます。

このため、支部におきましても各発注機関の皆様との意見交換会等において、週休二日の実現に向けて「発注者指定型」工事の全面導入や建設現場へのICT等の導入による「生産性の向上」に向けてお願いしているところであります。

引き続き、北陸地域の安全・安心で活力ある地域づくりと建設業の担い手確保に向けて各発注機関のご尽力、ご協力をいただくように機会を捉えてお願いして参りたいと考えております。

また、支部の広報活動におきましても、広報誌「ゆう」の発行をはじめ、これまで「親子工事見学会」や「市民現場見学会」の開催、また、「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」、「土木学会関東支部新潟会」等と連携を図りながら、産・官・学が一体となった活動で、社会資本整備の意義やその必要性、魅力ある建設業のイメージアップを積極的に情報発信していきたいと考えております。

【北陸地域の公共工事にかかわる課題】

取組みの第二は、公共工事費の執行に関わる課題であります。

北陸地域経済の活性化に建設業が担う役割は大変大きいところがございます。現在、大河津分水路の抜本的な改修や日沿道のミッシングリンク解消に向けた事業が進んでおります。また、南海トラフ地震や首都直下地震などが想定されておりますが、発災時の日本海側からの支援ルート、代替物流ルートなどの北陸地域からの列島縦・横断的な道路のネットワークは、迅速な災害支援体制の確保に向けて大変重要と考えておりますので、国、自治体等による更なる整備拡大を期待しているところでございます。

その一方で、私ども建設業が健全な発展をしていくためには、「適正な受注活動」、「工事の円滑な推進」が重要な課題であります。改正品確法の理念に基づき、「設計変更手続き」

や「適切な工期設定」などの課題について、各発注機関と積極的に意見交換会等を行って参ります。引き続き、行政機関との連携を強化しながら工事施工の円滑化4点セットの活用、そして現場の生産性向上への取組みなどを推進して参りたいと考えております。

【安全・品質】

取組みの第三は、安全と品質についてです。

工事施工における安全の確保につきまして、会員の皆様のさらなるご尽力をお願い申し上げます。近年、労働災害が減少傾向にありますが、全産業の中で建設業の災害発生率は依然として高い数値を示しております。

また近年、建設現場での不適切な管理により、重大な品質不良が発生した事案があります。

建設現場において、発注者との協議を十分に行いながら、安全管理、品質管理に万全の体制で臨むことが、建設業の使命と考えておりますので、宜しくお願い申し上げます。

また、建設現場において更に安全意識を高揚させるとともに労働災害撲滅に向けて決意を新たにすため、今年度も「労働災害防止安全推進大会」を開催したいと考えておりますので、宜しくお願い申し上げます。

【終わりに】

さて、本日13時30分から、テレビ会議による日建連と北陸地

2020年度
事業実施
計画

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 公共事業の円滑な実施 | 6 技術開発の推進 |
| 2 請負契約制度の改善 | 7 広報活動の推進 |
| 3 積算の適正化と資材対策の推進 | 8 担い手の確保・育成に向けた対応 |
| 4 安全対策の推進 | 9 災害対策等への対応 |
| 5 環境対策の推進 | 10 委員会の設置 |

別表 委員会名及び所管事項

○総務委員会

- (1) 総務一般に関する事項
- (2) 公共工事の促進に関する事項
- (3) 支部活動を維持するための検討に関する事項
- (4) 電力工事に関する事項
- (5) 災害対策に関する事項

○契約積算・技術委員会

- (1) 請負契約制度および積算に関する事項
(資材対策および労務費等に関する事項を含む)
- (2) 鉄道工事に関連する請負契約制度および積算に関する事項
- (3) 土木工事技術開発に関する事項
- (4) 公共工事における新技術活用に関する事項
- (5) 災害対策に関する事項

○広報委員会

- (1) 広報一般に関する事項
(講演会、視察研修、鉄道工事見学会等を含む)
- (2) 広報誌の編集発行に関する事項

○安全環境対策委員会

- (1) 安全・労働対策に関する事項
- (2) 営業線近接工事の安全対策に関する事項
- (3) 環境関係諸問題に関する事項
- (4) 建設副産物に関する事項

○事故防止対策委員会

- (1) 交通事故防止に関する事項
- (2) 地下埋設物の事故防止に関する事項
- (3) 火薬類の事故防止に関する事項
- (4) 公害防止対策に関する事項
- (5) 現場点検の実施
- (6) 安全対策に関する講習会の開催

現場で輝く
けんせつ小町



「けんせつ小町」は建設業で働くすべての女性の愛称です。建設現場で働く技術者・技能者、土木構造物や建物の設計者、研究所で新技術を開発する研究者、お客様とプロジェクトを進める営業担当者、会社の運営を支える事務職など、活躍の舞台は多岐にわたります。

『地図に爪痕を残し、地域の生活を守る かっこいい!女性技術者を目指して』

Q. 建設技術者を目指したきっかけを教えてください。

A. 仕事の成果が実際に目で見ることができ、形が残っていくという事にとても魅力を感じたからです。学生時代、座って話を聞く授業よりも、測量実習や実験などといった、結果が見てわかる実技授業の方が好きでした。社会人になってからも、そんな私の性格に合った仕事をしたいと思い、建設業を目指すようになりました。

Q. 現在の業務とやりがいについて教えてください。

A. 新潟市の都市部を地震、津波、洪水から守り、市民憩いの水辺空間の創出を行うため、信濃川沿いにあるやすらぎ堤の築堤や河道掘削に携わっています。

現在、私は、主に安全管理や測量業務を行っています。私にとって2つ目の現場で、経験したことのない工種や、初めて行う業務がたくさんありますが、上司や協力業者の方々からサポートをいただきながら日々勉強しています。

この仕事のやりがいは、「地図に爪痕が残る」事だと思っています。冒頭にも書いたように、この仕事は、結果が目に見える形で残ることが大きな特徴だと思います。多くの場所に文字通り「爪痕」を

残して、地域の生活を守ることができるこの仕事は、とても魅力的だと思います。

Q. 建設業界全体に対する思いについて教えてください。

A. 建設業の魅力をもっと外へ発信していくべきだと思います。

学生の頃、初めて建設現場で働く方々を見て、「すごい!かっこいい!」と感じました。

また、業務を終えて現場から帰る際、近くに住む地域の方から「女の人も今は工事現場にいるんだね、かっこいいね」と言ってもらえたことがあります。

マイナスイメージが大きいといわれていますが、建設業に携わっていない人が実際にこの仕事を見てみると「かっこいい!」と思えるのだと思います。働き方改革等、改善点はまだ多いのかもしれませんが、私はまだ勉強中の身ではありますが、もっとこの業界のことをいろいろな方に見てもらえたら、今よりもっと活気あふれる業界になるのではないかと考えています。

Q. 未来のけんせつ小町への思いやアドバイスをお願いします。

A. 「もっと仲間が増えてほしい!」と思っています。少しでも気になったら、実際に



株式会社福田組
新潟本店 土木部 工事部
上田 夏子
Natsuko Ueda

今回は、国土交通省北陸地方整備局発注工事の「信濃川下流東新潟地区河道掘削及び新光町やすらぎ堤その9外工事」でご活躍されている上田夏子さんにお話を伺いました。

見に行くのも良いと思います。イメージが、ガラッと変わるかもしれません。私もその一人です。

楽しそうと思ってもらえたら嬉しいです。「女性だから大丈夫かな?」と不安になるかもしれませんが、意外と女性の先輩が多いという印象です。交流する機会もあるので、あまり心配する必要はないと思います。一緒に頑張りましょう!!

「来週から特別支援学校の生徒さんが実習に来るからよろしく!」と代表から急に声をかけられたのは10年ほど前、私と障がい者さんとの出会いのはじまりでした。

弊社に特別支援学校の実習の依頼があり、私は障がいを持った方とどのように、接したらいいか、どうしたら上手く伝わるかなどよく分からないまま手探り状態でした。その後雇用へ繋げ、清掃、事務作業などを中心に働いていただきましたが、なかなか定着ができず障がい者雇用の難しさを痛感しました。

これでは社会に貢献できない、こどもたちの活躍の場が広がらないと考えていたとき、ソフトバンク株式会社様と東京大学先端科学技術研究センター様が連携して取り組んでいる障がい者の短時間雇用の考え方を知ったことをきっかけに、新潟では産業構造の違いなどにより、雇用定着が難しいので、雇用には拘らず地域全体で就労の場を増やす活動に切り替えました。少し内容のご説明をさせていただきます。

「企業の働き方改革(人手不足)と

障がい者の多様な働き方をつなぐマッチング」

この事業の特徴は、

1. お仕事は福祉事業所様の職員と障がい者がチームとなり行うので、安心です。
2. 必要なお仕事を必要な時間だけ発注できます。
3. お客様の成功事例(マッチング)を情報発信し、企業ブランディングのお手伝いをします。

この活動で私は企業様と福祉事業所様の間に立ち、繋ぐことをしているわけですが、様々なストーリーがありいつも刺激を受けています。私も障がい者の方と一緒に仕事をしていますので、障がい者メンバーが成長していく過程が嬉しい気持ちでいっぱいになります。この成果をHPなどで情報発信をすることにより採用していただく企業様のブランディングはもちろんのこと、知らない方へのヒントになればいいなと思います。

このように企業様と障がい者チームを繋ぐ仕事に変えたことで、1人で自社の雇用に悩んでいたことが地域全体で

障がいを持った方の活躍の場を創造でき、そして彼らの笑顔を見ることができています。約2年間マッチングした障がい者の就労時間の実績として、250時間/月→2,000時間/月と約8倍まで上がっています。この数字は労働換算にすると、2.5人→16.6人分に値します。

この活動を通じて、一つの建設会社様よりお仕事の依頼がありました。建設現場で障がい者が働くのは危険で難しいと思っていましたが、工事現場の休憩室とトイレの清掃を実施させていただくことが出来まして、可能性を発見できました。最近では女性の作業員の方のためにキレイな休憩室やトイレを設置しているようで、私たちがお役に立てることがまだまだあると感じました。私たちの活動が「ゆう」をご覧になっている会員の皆様の一助となれば幸いです。

最後に私たちの夢は障がいのある人たちが与えてもらって生きるのではなく、自らが与える側となって喜びを感じ「私には夢があります」と言える未来をつくりたい。これからも全力で走り続けます。

エッセイ ESSAY

「I have a dream 『私には夢があります』と言える未来へ」



株式会社パウハウス
江口 知美
Tomomi Eguchi



「淡麗辛口の成り立ちと未来」



新潟県醸造試験場
場長

金桶 光起 Mitsuoki Kaneoke

今では新潟は高品質な清酒の醸造地として知られていますが、醸造試験場が設立された昭和5年当時は灘・伏見の酒が高品質で新潟を含めた地方の酒の品質は低いものでした。

そこで新潟県の蔵元は、新潟清酒の品質を上げるには県立の試験研究機関が必要との考えにより現在の新潟市中央区水道町の

地に醸造試験場を造り、その運営を県に任せました。

今日までの90年間、醸造試験場は県内の蔵元と共に、◎新潟県の気候風土に合う醸造技術の開発、◎酒造好適米の開発、◎酒造従業員の人材育成を行ってきました。

その成果が「淡麗辛口」に代表される新潟清酒の酒質の誕生です。

この酒質は新潟の冬期の寒冷な気候、軟水での醸造技術の開発が大きな要因となっています。この淡麗辛口の酒質は昭和50年代に、産業構造が1・2次産業から3次産業への変化と、食の欧風化により畜産物・油脂類の多い食事へと変化し、消費者の酒の嗜好が濃醇から淡麗へ変化したのと重なり一大ムーブメントを引き起こしました。全国の酒質も新潟から10年ほど遅れて淡麗化に流れ、この流れはビールの味も淡麗化させました。

現在も新潟の酒質の基本は淡麗ですが、様々な酒質が醸されており、多種多様な日本酒を楽しむ事が出来ます。

さらに新潟清酒は今、世界へ羽ばたこうと

しています。それは世界で初めて新潟に出来た「日本酒学」です。これは新潟大学、新潟県酒造組合、新潟県の三者で平成29年に連携協定が締結されたものです。日本酒に関する教育・研究・情報発信・国際交流を通して新潟を世界の中で日本酒の拠点にしようとするものです。言うなればワインの世界のボルドーです。今後の新潟清酒の世界的な活躍にご注目ください。



▲研修棟

新潟県醸造試験場

ゆるたいむす

「音楽のちから」



Vice
Gt

近藤 尚久 Naohisa Kondo

私は新潟市内でvice(ヴァイス)というバンドでギターを弾いています。

通常は、年間に5~6回ほどライブを行っています。しかし、現在、新型コロナの影響もあり、2019年12月を最後にライブハウスでのライブは止まっています。本来であれば、2020年6月にライブを行う予定でしたが、自粛により中止となりました。

通常は、中々時間の合わない中でもメンバー4人で集まり、ライブに向けて貸スタジオで練習を行っています。が、それすらも現状のコロナ禍の中、最も三密といわれる分野のため、集まった練習も出来ない状況です。

ただ、どんな時代でも音楽・エンターテインメントって大切だと思えます。音楽は、人を励ましたり、勇気づけたり、癒したり、奮い立たせたりと無限大な力を持っていると思います。

バンドでライブを演じていてステージの上で感動する事があります。こちらの演奏に対し、観客のエネルギーがダイレクトに伝わってくる、バンドが観客を煽る、相互の作用で一段と盛り上がる。バンドをやっている人間の特権というか、毎回、ライブを行うたびに、やってみて良かったと、見に来ていただく方々より自分が楽しんで、演奏しながら感動しています。

自分達もライブの後に見に来てくれた方々から、「良かったよ!」「いい音だったよ!」「発散出来ました!」「見てて楽しかった!」など、沢山の言葉をもらいます。そんな時は、次、また頑張ろうとか、何か伝わったものがあって良かつ

たなと思ひ、次回のライブに向けての力になっています。

いつか今の状況が収束したら、音楽で見に来てくれた方々を幸せにしたり、勇気を与えたり、癒してあげたりする事が出来たら...

そんな日が早く来るように祈って。



「バーを楽しむために」



居酒屋BAR Natsuo

鳥取 真樹 Masaki Tottori

この記事をご覧になっている皆様はバーでお酒を飲んだ事はありますか?

私は現在18年バーテンダーとして仕事をしています。働いているとバーの雰囲気には当然慣れてくるものですが、行きなれていないお客さんからは「敷居が高い」「入りづらい」などと言われる事も少なくありませんでした。

もちろん私が思う答えは「全然そんな事はありません」です。

中には高級なお店もあることはありますが、繁華街の人通りの多い路面店のバーは持ち合わせが多くなっても気軽に楽しめるはずです。

そして注文の仕方がわからなければまずはジントニックを注文してみてください。ジントニックはカクテルの中で一番注文率が高く、お店ごとにジンの銘柄、トニックウォーターのメーカー、ライムの熟成度、配合に至るまで千差万別で、そのお店の特色を知ることができます。

そして2杯目に自分がその時に思ったままの「さっぱり系」「柑橘系」「甘め」などの雰囲気店員に伝えてみてください。これこそがバーテンダーの技術と経験、そして感性が一番活きる瞬間であり仕事冥利に尽きるものです。

いつもと違うお酒を楽しみたい日、飲みながら誰かとちょっと粋な会話したい日などにはぜひバーに足を運んでみてください。



「マイクロツーリズムのすすめ」



新潟シティガイド

伊藤 頼子 Yoriko Ito

秋はどこを旅しようかとワクワクする季節。私は週末だけ「まちあるきガイド」をしていますが、最近プラタモリの人気で、歴史や文化に加えて地形由来のまちの見かたを楽しむ方も増えてきました。そんなお客様には地形的な話から入ることもあります。新潟は、信濃川と阿賀野川2つの大河が運んだ土砂により広大な越後平野が生まれました。海岸沿

いには全長70kmを超える砂丘が続き、砂の大地は内陸部まで広がります。鳥取砂丘が14kmですから大きさが分かりますね。地理学の専門家も認める日本最大級の砂丘に阻まれた水が無数の渦となり、できたまちが、まさにNew Lagoon(新潟)です。

北前船の寄港地として栄えた「みなとまち新潟」は、明治には開港五港に選ばれ、京都の祇園、江戸の新橋、新潟の古町と並び称された花街(かがい)があり、いまも古町芸妓と古い街並みの残る界隈があります。

新潟といえば「雪国・米と酒・魚」ですが、他にも『砂の町・水害との闘い・みなとまちの歴史・小路の魅力』といったマクロからマイクロまでの魅力に溢れたまちを、ご紹介したいと思います。

新潟シティガイドは、新潟市中央区を中心に歩きながらご案内しており、約2時間のまちあるきは、歴史・文化・街並みを中心とするものや、新潟の町屋や小路を楽しむコース、うんめもん(美味しいもの)をめぐるながら歩くコースまで多彩です。

何よりガイドと歩くことで、一歩地元に入り

込んだ時間を楽しめることと思います。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、遠出を控えている方もいらっしゃるかもしれませんが、身近な地域に改めて目を向けて、マイクロツーリズムを楽しんではいかがでしょうか。



新潟シティガイドHP
<https://niigata-cityguide.com/>

おすすめスポット
https://niigata-cityguide.com/spot01_1.html

MY 私の PRIVATE TIME



(株)奥村組 北陸支店 支店長
福田 雄一
Yuichi Fukuda

「散策と美食」

2018年4月に北陸支店長に就任し、今年で3年目を迎えます。(単身赴任です)	天領として栄え、今も名状し難い霧閉気の良さを醸し出す港町の風景は、時間も疲れも忘れさせてくれます。	2年もいると行きつけの鮎屋もでき、仕事の帰りに一人で地酒と地魚で一杯やるのが楽しみの一つで、佐渡前のハチメの煮つけと冷酒が定番中の定番。
新潟に拠点を置く北陸支店の歴史は49年、先輩たちが築いてきた人脈をしっかりと受け継ぎ、お客様からより一層信頼される支店とすることを目指して努力しています。	歩くことがこんなに楽しいこととは思いませんでした。健康にも良いし、ストレス解消にもなる。そして、歩いた後は食事も美味しい。	梅貝の刺身と熱燗、黒崎茶豆とビールも定番。要するに美味しいものがいっぱいあるのです。
休みの日は新潟の街を散策するのが習慣となっています。	この習慣は続けようと思っています。	新潟は二度泣く街。
定番コースは「萬代橋→入船町→日和浜海岸→護国神社→白山神社→信濃川やすらぎ堤→萬代橋」。心地良い風を感じながら約2時間強18,000歩の道のりを歩いています。	新潟には美味しいものが沢山あり、美食の街と言っても過言ではないでしょう。お米はもちろん海産物も美味しく、特に貝類や白身の魚は絶品です。	「一度目は東京から新潟に転勤と言われて泣き、二度目は帰って来ると言われ嫌だと泣く」そんな新潟の街に今日も夜の帳がおりて、萬代橋の高欄に灯がともる。



建設業を取り巻く環境は年々厳しいものになってきますが、縁あって赴任したこの新潟で大きな足跡を残せればと思っています。

散策と食が私のプライベートタイム。毎日の奮闘を支えてくれる大事な時間です。

事務局だより

●令和元年度災害等で北陸地方整備局長表彰

日建連北陸支部は、去る2月19日に昨年発生した9月の台風15号及び10月の台風19号による災害対応・支援に尽力した団体として北陸地方整備局長から感謝状が贈呈されました。また、当年度に新たに「災害対策関係功労者表彰」が創設されたことから、台風19号で甚大な被害が発生した千曲川流域における応急復旧に貢献した団体としても表彰されました。



●2019年度下半期の主な支部活動報告

・関係機関や会員の皆様からご協力をいただき以下の活動を展開してきました。

■事故防止に関する講習会の開催

開催日/2020年1月21日(火) 内容/建設工事の産業廃棄物処理等に関する講習会
開催日/2020年2月13日(木) 内容/建設工事の地下埋設物事故防止講習会

●2020年度上半期の主な支部活動報告

・関係機関や会員の皆様からご協力をいただき以下の活動を展開してきました。

■公共工事の諸課題に関する意見交換会

開催日/2020年6月8日(月)
会場/TV会議
内容/本誌及びホームページに掲載

■市民現場見学会に代わる技術ビデオ視聴

開催日/2020年6月16日(火)
対象学生/金沢大学

■北陸支部定時総会

開催日/2020年6月8日(月)
会場/ホテルオークラ新潟
内容/本誌に掲載

■北陸電力への本部役員挨拶

開催日/2020年7月27日(月)
内容/宮本土木本部長をはじめ土木本部役員と芦田支部長により、北陸電力を訪問し、久和代表取締役会長、金井代表取締役社長のご出席をいただき情報交換を行いました。

BACK STAGE 編集後記

昨年5月に「令和」の時代が幕を開け、今年には東京オリンピック、パラリンピックが56年ぶりに開催、誰もが新時代に相応しい年となることを期待されていたと思います。

しかし、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症により、オリンピック、パラリンピックの開催延期が決定、世界的な景気後退の懸念が日毎に高まり、先行きは不透明になっています。

この新型コロナウイルス感染症は、我々建設業界にも大きな影響を及ぼしています。移動や外出の自粛要請に加えて、事業の見直しによる受注数の減少、工事中止、工期の遅れ等、企業活動の停滞を余儀なくされています。

外出自粛に伴い、我が国では在宅勤務の拡大が急激に進みました。私も不安を抱きながら数日間、在宅勤務を試みましたが、環境の変化に何となく落ち着かず、作業に集中できない時間を多く費やしました。

一方で建設現場での仕事に在宅勤務を採用することは現時点では困難とされています。現地における受注生産ですので当然と言えばそれまでですが、現場常駐での感染防止対策に限界があることは想像に難くありません。

今後、リニア中央新幹線、高速道路リニューアルプロジェクト、5G通信等の大型インフラ事業をはじめとし、大阪万博やインバウンド施設等のプロジェクトも控えています。

ICT化、無人化施工といった技術開発の加速による3密環境の低減が期待されます。

一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束を祈念するとともに、微力ながら広報活動を通じ、この難局を乗り越えていければと考えています。

(久保 茂樹 記)